

令和3年度 認定こども園 やまなみ 自己評価結果報告書

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども主体の保育」とはどういうことを考えて保育環境を見直し、0歳児クラスに「ゆるやかな担当制」を導入した。 ・子どもの実態に即して年間計画に散歩や第2園庭での活動、菜園での栽培活動を落とし込み、園外に出る経験を多くすることで体力作りや地域に対する関心を高められるように努めた。活動の様子はホームページや写真、動画の配信で保護者にも伝えることができた。 ・熊本県教育委員会から5度目となる教育アドバイザーの派遣を受けた。5歳児クラスの参観後、保育内容についての助言を受け、日々の保育内容が「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」とどのようにつながっているか、子どもたちに育てたい力は何かを意識しながら計画を立てることを学んだ。
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ・「年間保健指導計画」に基づき、園児を対象とした保健指導を継続し、健康安全指導・生活習慣等に関する保育内容の充実を図った。 ・新型コロナウイルス感染症予防のため施設内外の設備・用具等の消毒、常時二方向換気を徹底した。職員は出勤前の検温、職務中のマスク着用や手洗いを強化した。 ・引き続き、以上児は体温チェックシートに毎朝体温を記入してもらうことで、園児の健康把握に役立てた。保護者と共に園と家庭が協力して感染症の防止に努めた。 ・月1回の身体測定、年1回の内科健診(視力スクリーニング)、年1回の歯科検診、尿検査(3,4,5歳児)を実施し、結果票を保護者に渡して必要に応じた受診・治療の確認をした。 ・保護者には保健便り「げんきっこ」を通じて、保健指導内容や感染症情報、生活習慣等の健康管理・生活管理に関わるタイムリーな情報発信をすることで、家庭での親子の会話を広め、更なる意識の啓発を図った。 ・保健衛生・安全対策専門リーダーによる歯科指導、手洗い指導を通して「おくちの体操」や「あわあわ手洗い」等子どもたちが楽しみながら習慣付くよう取り組んだ。 ・アレルギーがある園児については看護師による面談を行い、生活管理指導表を年に1回提出してもらった。エピペンの処方がある場合には、その管理について職員に周知徹底を図った。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校安全計画」を基に、園児への安全指導を行う。毎月1回の避難訓練(火災・地震)の計画の見直しを行い、避難経路や避難する順序について会議で話し合った。 ・職員の消火訓練の実施、年に1回の不審者対策訓練・交通安全教室、職員対象にAED講習会・エピペン使用法講習会を行い、保護者には掲示物を通して園の取り組みを発信した。また、非常時にも連絡が取れるように一斉メール配信システムへの登録を推奨した。 ・保育環境の管理に向けて、月初めの安全点検を実施し、全職員で安全管理に努めた。 ・事故報告書やヒヤリハット報告書を作成し、職員に周知した。 ・大型駐車場内での事故防止の注意喚起を保護者に呼びかけることで送迎時の安全につながった。

<p>食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・献立表及び給食便りを毎月発行した。引き続き、給食食材から卵だけでなく、乳、小麦も完全除去し、魚や大豆・豆腐・豆乳での代替食を提供することで、アレルギーのある園児も同じテーブルで給食が食べられている。 ・月に1回、食育・アレルギー専門リーダーと給食室チーフとの会議で、各年齢の子どもたちの食事の様子を報告したり、献立表について話し合ったりすることで、職員が食べ物の栄養についての知識を高めることができ、絵本室の一面に食育コーナーができた。 ・食育・アレルギー専門リーダーでやまなみの食育の全体計画を立て職員に周知したことで、年齢ごとのねらい・配慮事項を明確にすることができた。 ・給食室横にその日の献立を写真で掲示することで送迎時の親子の会話にも給食の話題が聞かれるようになった。 ・以上児は当番活動で給食室の様子を見たり、献立名をクラスに伝えたりすることで給食を楽しみにし、食に対しての意欲を高められるようにした。 ・第2園庭の菜園での栽培活動(サツマイモ、夏野菜)や給食食材の皮むき体験(トウモロコシ)の様子を写真等で掲示したり、菜園で収穫した物を持ち帰ったりすることで保護者も巻き込んで食について興味・関心が持てるようにした。
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者支援・子育て支援専門リーダーによる絵本便りの発行、及び絵本室の整備によって毎週金曜日の絵本貸し出しの利用者を増やし、家庭でも親子で読み聞かせの時間を楽しんでもらえるように取り組んだ。また、保護者にわかりやすい掲示物の工夫を考えた。 ・月に1回のクラス便り「やまなみっこ」の発行、未満児クラスは成長過程の掲示と連絡ノートの記入、以上児クラスは毎日の活動内容を掲示することで、日々の教育・保育内容を知らせて子どもの成長の喜びを保護者と共有できるようにした。 ・クラス懇談会を zoom を利用して開催したり、アンケートの結果を掲示したりすることで子育ての悩みを保護者間でも共有できた。 ・地域の子育て支援事業として、マタニティ広場を月に1回程度開催した。 ・子育て支援センターによるオンラインでのベビータイムを通して地域交流事業に取り組んだ。
<p>教育・保育内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児クラスに「ゆるやかな担当制」を導入し、子どもたちの安心感や満足感をより高められるように努めた。 ・昨年度に引き続き「夏祭りごっこ」を計画、実施した。3、4、5歳児で同じ活動に取り組むことで異年齢交流もでき、のびのびと楽しむ子どもたちの姿が見られた。 ・感染対策のため、以上児クラスを対象に学年入れ替え制の運動会を体育館で行い、保育参観は参観日を指定し、参観の保護者をひとりに制限して行った。全学年を対象にホールで開催した無観客の発表会は、生配信することで保育・教育の取り組みや意図を伝えることができた。 ・勤労感謝の日に向けて、日頃お世話になっている地域の方々に向けて感謝の気持ちを届ける活動に取り組むことで、地域交流のきっかけとなった。

<p>保育教諭の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性を深めるための研修に積極的に参加し、研修報告書を全職員で回覧した。 ・「人権チェックリスト」及び「自己評価表」の記入と面談を全職員が行うことで、自己の職務の確認に繋げた。 ・感覚統合に基づいた遊びや気になる子どもへの対応についての勉強会に参加し、園内研修で実践報告会を行うことで、職員間で共有でき、専門職としての意識が高まった。 ・乳児保育・幼児教育・食育アレルギー対応・保護者支援子育て支援・保健衛生安全対策の5つの専門リーダーがそれぞれにテーマを掲げ、定期的に話し合いを行なった。
------------------	---

◎今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課題	具体的な取り組み方法
<p>保育内容の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き職員の振り返りの時間を確保し、評価と反省を繰り返す中で、子どもに必要な環境、健やかな成長のための保育・教育を目指す。子どもたちが身近な環境に興味・関心を持って試行錯誤や工夫を重ねていく過程で、職員が子どもの気付きや発想をどのように認め、次につなげていくかを職員間で話し合っていく。
<p>保護者に向けての 保育・教育内容の発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の中で大事にしていることやその活動のねらいが、保護者に伝わるように伝え方を動画の配信やホームページの利用などで工夫していく。
<p>人材育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者同士のコミュニケーションやチームワークが保育の質に大きく影響し、働きやすい職場作りに欠かせないことを全職員が共通理解し、気軽に子どものことや保育のことを話せる場をつくっていく。

以上の通り報告します。

令和4年（2022年）3月31日

やまなみ

園長 山崎 敬太郎